

【実証実験の目的】

現状人が実施している警備業務をA I搭載ロボットより一部代替することが可能かどうかの調査を行います。また、旅客ターミナルビルで行う実証実験において、警備業務を代替するA I搭載ロボットに対する社会的受容性も検証します。

【実証実験の概要】

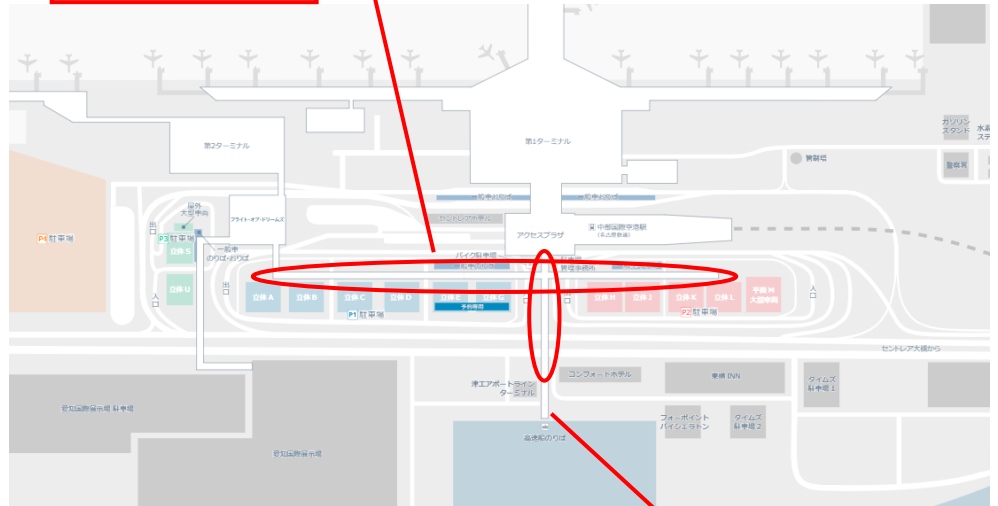
実施日	2024年1月17日(水)から1月19日(金)まで 2024年2月14日(水)から2月16日(金)まで
実施場所	<p>【空港制限エリア】 中部国際空港島 西側護岸、北側場周フェンス</p>  <p>(次ページに続く)</p>

実施場所
(続き)

【旅客ターミナルビル】

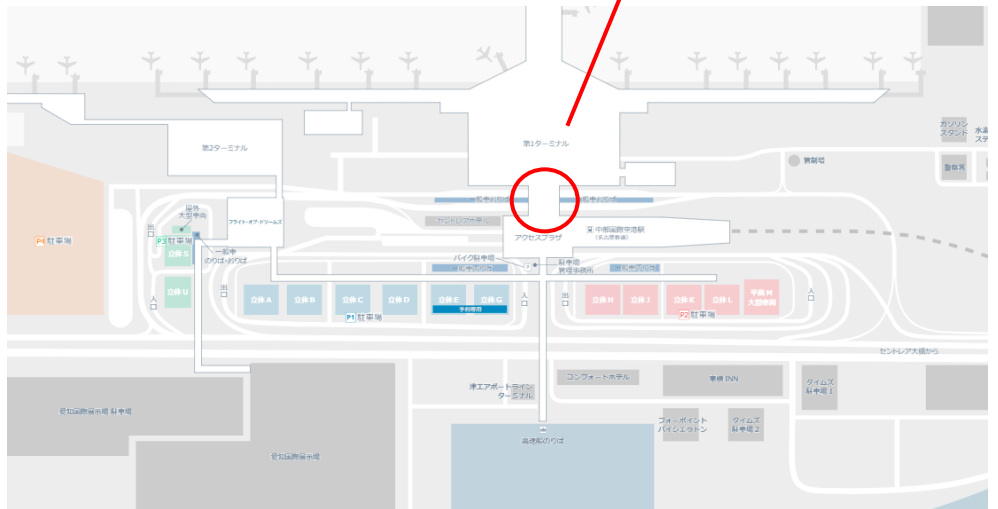
中部国際空港 駐車場連絡通路・海上連絡通路・降車レーン

駐車場連絡通路



海上連絡通路

1階降車レーン



<p>実証内容</p>	<p>【空港制限エリア】 場周フェンス及び護岸上の目視確認を「Spot」で代替することが可能かを検証します。 代替する目視確認の内容は、次の4項目です。</p> <p>①設備の破損・劣化 ②不審者の有無 ③護岸に接近する船舶の有無 ④鳥類の有無</p> <p>【旅客ターミナルビル】 連絡通路では、次の4項目を検証します。</p> <p>①自動走行可能か ②不審物検知ができるか(荷物置き去り) ③人(関係者)が歩いている中で Spot が自動走行できるか ④一般の方の Spot への社会的受容性調査(ヒアリング)</p> <p>降車レーンでは、次の項目を検証します。 公道上の自動走行若しくは横断歩道を渡る自動走行 (注)検証内容が変更になる可能性があります。</p>
<p>備考</p>	<p>【旅客ターミナルビル】での実証実験は一般の方も見学いただけます。</p>

【実施体制】

参加予定企業名	主な役割
日本アイ・ビー・エム株式会社(幹事)	事業全体の管理、推進
日本アイ・ビー・エム システムズ・エンジニアリング株式会社	調査、実証の計画、実施、評価、取りまとめ
株式会社東北エンタープライズ	Spot の提供、技術支援を実施
中部国際空港株式会社	実証実施エリアの提供、実証内容の統括的アドバイス、実証結果の統括的評価
一般財団法人航空保安協会	屋外警備における実証内容のアドバイス、実証結果の評価
株式会社全日警	施設内警備における実証内容のアドバイス、実証結果の評価
愛知県	愛知県内各主体間の調整、規制改革に関する調査支援、道路使用許可等に係る愛知県警との調整
常滑市	地域内調整、規制改革に関する調査支援